**タイトル植物形態学会投稿原稿用サンプル**

**形態太郎1、植物花子2**

1植物大学形態学部 〒980-8577宮城県仙台市青葉区片平2-1-1

2植物研究所形態学部門 〒036-8561青森県弘前市文京町3番地

**要旨：** 和文原稿の場合、和文タイトル、著者、所属、和文要旨（600字以内）に続き英文タイトル、著者、所属、英文要旨（250語以内）を記してください。日本語の場合、句読点は全角の「、」、「。」で統一してください。フォントサイズや行間の指定、段組、図の挿入などは印刷所が行ってくれますので、投稿用の原稿執筆の際にはそれらを気にする必要はありません。要旨およびSummaryは一段落（one paragraph）としてください。ウェブサイトに掲載されている印刷仕上がり見本は二段組みになっていますが、投稿原稿はこのサンプル通り一段組でお願いします。

**How to submit your manuscript to *Plant Morphology***

**Taro Keitai1, Hanako Keitai2**

1Department of Keitai, Shokubutu Univ., Katahira 2-1-1, Aoba-ku, Sendai, Miyagi, 980-8577 Japan

2Division of Plant Morphology, Institute of Plant, Bunkyo-cho 3 Hirosaki, Aomori, 036-8561 Japan

Author for correspondence: T. Keitai, e-mail address

**Summary:** ここに英文要旨（250語以内）を記してください。英文原稿の場合：和文タイトル、和文要旨は不要です。英文タイトルにおいて、固有名詞以外は、先頭の語の頭文字のみ大文字としてください。

**Key words:** cryoprotectant, cytoskeleton, freeze substitution, high-pressure freezing, vitrification （半角コンマと半角スペース「, 」で区切って5語前後（英単語を推奨）を記してください。固有名詞でなければ、頭文字は小文字とし、アルファベット順に並べてください。）

**はじめに**

　原稿〆切は例年12月初旬となっております。原著論文をご投稿いただいた場合、 1月31日までに受理されれば、印刷がその年の巻に間に合います。査読期間を見込んでご投稿下さい。

　原稿の長さは 6-10頁程度でお願いします。英文和文は問いません。電子版は下記のJ-STAGEのウェブサイト (https://www.jstage.jst.go.jp/browse/plmorphol/-char/ja) にて公開します。

　なお、図の大きさにつきましては、指定されない場合、きりが良くページに納まるように、印刷所が適宜縮小する場合があります。縮小を避けたい場合は、入稿時に図のサイズを指定して下さい（横幅が1カラムか2カラムかなど）。著者校正時にも大きさの修正は可能です。

　＜表紙写真募集＞表紙写真を募集します。候補となる写真がありましたら、ぜひ編集部にお送りください。表紙写真はオリジナル（表紙専用または記事内で初出のもの）である必要があります。記事の内容に関連するようでしたら、記事内に使う予定のものでなくても構いません。また、総説や原著論文の記事の著者ではない方からの表紙写真のみの応募も受け付けます。その場合、写真の説明はBrief Noteという形になります。お近くに良い写真をお持ちの学生さん・若手がいらしたらご推薦下さい。

**項目**

　Subject headingは太字にしてください。本文中での文献の引用は2名までの場合 （鮫島 2006）　（Sameshima 2006) や（鮫島と宮沢 2006） (Sameshima and Miyazawa 2006) とし、3名以上の場合は（鮫島ら 2006）、(Sameshima et al. 2006) のように表記してください。2つ以上の文献を並べる場合は、 (Banno and Chua 2000, Favery et al. 2004) (Pickett-Heaps and Northcote 1966a, 1966b, Gunning and Wick 1985)（鮫島ら 2006, 鮫島と宮沢 2006） などのように、年代順に並べ、コンマで区切って下さい。

**項目**

　本文中での文献の引用には次のような場合もあります。

Marcusら (2005) が指摘しているように・・・

MineyukiとGunning (1990) は、・・・

・・・という可能性がある（図 5, Karahara et al. 2010）。

**項目**

　引用文献リストは筆頭著者名でアルファベット順に並べて下さい。著者が3名以上の場合はLast Authorの前にはカンマ付で andを入れること、学名をイタリックにすることなどに注意して下さい。雑誌名は略称として下さい。引用文献リストはJ-Stage上でもそのまま掲載されます。ミスがないよう十分チェックして下さい。英文原稿で日本語の文献を引用する場合は、文献の情報を英訳し、(in Japanese) と追記してください。

**引用文献**

Farrar, D. R., Dasller, C., Watkins, J. E., and Skelton, C. (2008) Gametophyte ecology. In: Ranker, T. A., and Haufler, C. H. (eds) Biology and evolution of ferns and lycophytes. Cambridge Univ. Press, Cambridge, pp. 222-256.

Hagemann, R. (1992) Plastid genetics in higher plants. In: Hermann, R. G. (ed) Cell organelles. Springer, Berlin Heidelberg New York, pp. 65-96.

Hirose, Y., Yonekawa, C., Nagao, N., Watanabe, M., Ikeuchi, M., and Eki, T. (2017) Characterization of the genuine type 2 chromatic acclimation in the two *Geminocystis* cyanobacteria. *DNA Res* (in press).

Ishihara, K., Takai, M., and Nishizawa, K. (2011) University of Tokyo, Japanese Patent P4729709, 2011-04-28.

Kasahara, R. D., Portereiko, M. F., Sandaklie-Nikolova, L., Rabiger, D. S., and Drews, G. N. (2005) *MYB98* is required for pollen tube guidance and synergid cell differentiation in *Arabidopsis*. *Plant Cell* 17: 2981-2992.

Maheshwari, P. (1950) An introduction to the embryology of angiosperms. McGraw-Hill Book Company, Inc., New York.

Matsubayashi, Y. and Sakagami, Y. (1996) Phytosulfokine, sulfated peptides that induce the proliferation of single mesophyll cells of *Asparagus officinalis* L. *Proc Natl Acad Sci USA* 93: 7623-7627.

Mineyuki, Y., Suda, J., and Karahara, I. (2004) Electron tomography. *Plant Morphol* 16: 21-30 (in Japanese).

峰雪芳宣、須田甚将、唐原一郎 (2004) 電子線トモグラフィー *Plant Morphol* 16: 21-30.

Mizuta, Y., Kurihara, D., and Higashiyama, T. (2015) Two-photon imaging with longer wavelength excitation in intact *Arabidopsis* tissues. *Protoplasma* doi: 10.1007/s00709-014-0754-5.

Sakamoto, Y., Ishimoto, A., Sakai, Y., Sato, M., Nishihama, R., Abe, K., Sano, Y., Furuichi, T., Tsuji, H., Kohchi, T., et al. (2022) Improved clearing method contributes to deep imaging of plant organs. *Commun Biol* 5: 12.

内山聖一、岡部弘基、稲田のりこ (2012) 蛍光寿命測定による細胞内温度分布イメージング *光化学* 43: 24-27.

 Received: xx Xxxxxx 20xx

**図の説明**

図1 GLIMシステムによるオオムラサキツユクサの雄しべの毛の細胞の観察像。(A-C)光学系Iで撮影した大局像。6つの異なる焦点面で撮影した像のうち3つの像を示している。(D)光学系IIで撮影した局所像。 Bar = 10 µm.　図の例は玉置と峰雪 (2012) より引用・改変した。